大月氏國王治二監氏城一。……東至二都護治所一四千七百四十里。……大月氏本行國也。……本居二燉煌祁連間一。至二冒頓單于一。攻破二月氏一。而老上單于殺二月氏一。以二其頭一爲二飲器一。月氏乃遠去過二大宛一。西擊二大夏一而臣レ之。都二嬀水北一爲二王庭一。……大夏本無二大君長一。城邑往往置二小長一。民弱畏レ戰。故大月氏徙來。皆臣二畜之一。共禀二漢使者一。有二五翕侯一。一曰二休密翕侯一。……二曰二雙靡翕侯一。……三曰二貴霜翕侯一。……四曰二肸頓翕侯一。……五曰二高附翕侯一。……凡五翕侯。皆屬二大月氏一。

とある。この本文中の「大夏本無二大君長一」以下の記事はすべて當時大月氏に屬した大夏の狀況を述べたもので、從つて五翕侯も亦勿論大夏のことを書いたものと認めなければならぬ。かく解釋してこそ結末の「凡五翕侯、皆屬二大月氏一」の二句が始めて落付くのであつて、これを從來の見解の如く大月氏のことゝ解釋するならば、右の二句は殆ど疣贅同樣となる譯である。大夏はマルクヴルト氏がトクハリ（Tokhari）に擬定してゐるのは妥當と考へられる。後漢書の西域傳に五翕侯を大月氏が建てた樣に記載してあるけれども、之は後世のもので信憑し難い。漢書の本文に據ると、此等五翕侯は大月氏の建てたものでなく、大月氏に服屬したものである。その後五翕侯の一なる貴霜翕侯の勢强大となり、遂に他の四翕侯を併合して貴霜王國を建てゝから、その貴霜王國の疆域が大月氏のそれと同一である故、支那の記錄にはこの貴霜王國を依然大月氏と稱したけれど、これは習慣上又は便宜上のことで、已に後漢書西域傳に、「諸國稱レ之皆曰二貴霜王一。漢本二其故號一。言二大月氏一云。」と明記してある通りである。

要するに貴霜王を月氏種族と斷定すべき何等の確證もない。

以上は卽ち桑原博士の所論の要旨であつて前にも述べた通り余が全然同樣に感じて居る所である。後漢書の五翕